

第3学年道徳学習指導案

日時 平成24年9月27日(木) 5校時

対象 3年生(男17名 女18名 計35名)

指導者 横山 睦美

- 1 主題名 分かり合い、励まし合う友達(信頼・友情、助け合い 2-(3))
- 2 資料名 いいち、にいっ、いいち、にいっ(東京書籍 明るい心で 3年)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章道徳の目標及び内容の第3学年及び第4学年の内容の2「主として他の人とのかわりに関すること」の(3)に「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」とある。これは、互いに信頼し、友情を深め、助け合える児童を育てようとする内容項目である。この内容項目は、低学年の内容の2-(3)「友達と仲良くし、助け合う」を受けたものであり、高学年の内容の2-(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。」へと発展していくものである。

友達は家族以外で特に関わりを深く持つ相手であり、共通の話題や体験、互いの考え方等を交え、豊かに生きるための大切な存在である。よい友達関係を築くには、互いの存在を良さや課題も含めて認め合うことが必要である。そして、互いを信頼し合い、課題を克服していくための助言をし合い、励まし合うことによってさらに友情が深められていくのである。

この期の児童は、気の合う友達どうして仲間をつくって自分たちの世界を楽しもうとする傾向がある。しかし、一方で自分の利害に基づく衝突が強くなることも見られるようになる。友達と関わる楽しさを実感する今の時期に、本当の友達とは何か考え、自分自身を見つめさせることはとても重要であると考え。互いの考えを理解し、助け合いながら、信頼を深めていくことの大切さに気づかせていきたい。

(2) 児童について

子どもたちは、とても素直で、友達の誕生日におくるメッセージには、普段の生活の様子からよいところをよく見て書き表す等、優しい面を持っている。また、困っている友達を見るとすぐに駆け寄る場面も多く見られる。運動会のさんさ踊りでは、さんさリーダーを中心に、うまく踊れない友だちと一緒に何回も練習する様子も見られた。しかし、まだまだ友達の表面的な言動のみを捉え、強く注意したり、言い合いになったりすることも多い。

今一度、本当の友達とはどういう存在であるのか深く考え、自分自身や友達を見つめ直すことによって、さらに良い人間関係を築いていこうとする気持ちを育てていきたいと考える。

(3) 資料について

運動会で二人三脚をすることになり、ちえは、走るのが遅くあまりみんなと話さないあいと組むことになる。あいが遅くても自分が引っ張ればいいと考え、練習を重ねていく。助言をもとに毎日練習を続け、運動会当日を迎えるが、遅れまいと焦り始める。その時、あいがかけ声をかけ、2人はあいのリズムでゆっくりと最後まで走り、一番になる。はじめは自分の思いを中心に考えていたちえが、相手を理解し、心を通わせていく姿を通して、本当の友達について考えを深めていくのに適した資料であると考え。

(4) 指導の態度

本学級の今年度の「河北」輝きステージプランのテーマは「信頼・友情、助け合い」であり、2学期のめざす子ども像は、「相手の身になって考え、信頼を深め助け合う子」と設定した。

1学期、子どもたちは、町探検や日常の清掃活動、学級の様々な取り組み等を行う中で、互いに声をかけたり助け合ったりする姿が少しずつ見られるようになってきた。国語の学習では、詩「みんなちがってみんないい」を通して、互いにある良さを大切にしていくことを確かめ合うことができた。また、運動会のさんさ練習では、教え合う場面を設定することによって、友達の気持ちを考えながら、何度も練習する様子が見られた。2学期を迎え、さらに様々な活動を通して自分自身を伸ばそうという意識を持っている時期に、今回の授業を通して、友達を信頼するとはどういうことなのか、友達と助け合うとはどういうものなのかについて深く考えさせていきたい。

本時の指導では、「気づく」段階において、1学期に考え合った「なかよしだから」で捉えた価値を確かめ、さらに考えを深めていくことを確認したい。「深める」段階では、あいのことよりも、うまく走って1位をとることにこだわっているちえの気持ちを捉えさせたい。そして、「つかむ」段階では、あいに対するちえの気持ちの変化について考えることを通して、相手を信頼し、助け合うとはどういうことなのか考え合い、価値に迫りたい。さらに「広げる」段階では、学級や自分自身をふり返り、互いの思いを交流し合いたい。

4 本時の展開

(1) ねらい

友達と互いに理解し、助け合っていこうという心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	指導上の留意点 (◆は見つめる、◇はかかわり合いの手立て)
気づく3	1 今までの、友達との関わりについて考える。 ○「なかよしだから」でどんな友だちが大切だったか。	・なかよしだからこそ、いいにくいこともちゃんと言うこと。	◆前回、友達について考えたことをふり返り、現有の価値意識を見つめさせる。
深める23	2 資料を読み、感想を発表し合いながら、話し合いの方向性を確認する。 ○お話を読んで、心に残っていることを発表しましょう。	・はじめはうまくできなかったけど、何回も練習して、一番になってよかった。 ・あいちゃんのおかげだと言ったところが心に残った。	・心に残ったことを話し合う中で、話し合いの方向性を意識させる。
「ちえちゃんのおかげ」と言われたとき、ちえはどんな気持ちになったでしょう。			
つかむ10	3 ちえの気持ちを中心に考え、話し合う。 ① あいちゃんと組むことになり、ちえはどんな気持ちになったでしょう。	・あいちゃんが遅くても、わたしが頑張ればいい。 ・わたしが引っ張っていけば、1位になれる。 ・あいちゃんの分もがんばらなくちゃ。 ・あいちゃん大丈夫かな。	・一緒に組むのがいやだ、でもあいちゃんに悪い、という二つの揺れる心を捉えさせる。 ・自分が頑張ればいいのだから、ちえの気負いを、あいの表情とともに感じ取らせたい。
	② ちえはどんな気持ちで、練習を続けたのでしょうか。	・なかなかできないな。どうしよう。 ・あいちゃん、もっとがんばってよ。 ・声に合わせてやると、いいな。 ・少しだけど、できるようになってきた。	・なかなかうまくいかない時のあせる思いや、声をかけ合いながら何回も何回も練習を続けているときの気持ちを捉えさせたい。
	③ 手を取り合って喜びながら、ちえはどんな気持ちだったのでしょうか。	・あいちゃんがゆっくり声をかけてくれたから、一番になれたんだ。 ・がんばって練習してよかった。 ・あいちゃん、ありがとう。 ・よかった。一番になれた。	・「いいち、にいっ、いいち、にいっ」のゆっくりしたかけ声に合わせて、あいの気持ちに合わせて、あいとちえの気持ちが一つになったことに気づかせたい。
	④ 「ちえちゃんのおかげ」と言われたとき、ちえはどんな気持ちになったでしょう。	・あいちゃんがゆっくり声をかけてくれたから、二人で同じ気持ちになれた。 ・はじめは、自分が頑張ろうと思っていただけ、あいちゃんと一緒に、頑張った。 ・あいちゃんが声をかけてくれたから、一番になれた。	・ずっと自分が頑張らなければという思いを抱いていたちえが、あいに支えられ、あいの良さに気づく。相手を理解し、相手に合わせようとする心の変化があったことに気づかせ、価値に迫りたい。 ◆友だちの発表に対する感想を交えながら、考えを深め合っていきたい。
広げる6	4 自分の生活をふり返る。 ○友だちに励まされたり、やさしくされたりしたことがありますか。その時どんな気持ちでしたか。	・さんさ踊りの練習で、試験になかなか合格しなかった時、一緒に練習してくれた。 ・一輪車の練習の時に励ましてくれた。	◇自分の生活を振り返り、友だちに励まされた時の思いを、伝え合いたい。その中で、互いに理解し、助け合うことのよさを実感させたい。
まとめる3	5 友だちについての詩を読む。		・学習した価値を確かめ、友達について書かれてある詩を読むことで、価値の深化を図る。